

# 琉球大学学術リポジトリ

## 沖縄を訪れた日本植物病理学者

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-01-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 俊一, Shimabukuro, Shun-ichi メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015067">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002015067</a>

# 沖縄を訪れた日本植物病理学者\*

島 袋 俊 一

(琉球大学農学科)

## Japanese Plant Pathologists who visited Okinawa

### 1. 平 塚 直 治 氏

生 涯 : 1875年10月29日 ~ 1946年3月25日

出 生 地 : 北海道札幌市外白石村

学 歴 : 1896年7月札幌農学校卒業、後に農学博士。

沖縄との関係 : 沖縄中学校(現在の首里高等学校) 博物担任教師として1898年9月~1899年4月まで滞島。

沖縄に関係ある植物病理学上の報文 : Notes on some *Melampsorae* of Japan III. Japanese species of *Phakospora* 1900 (Bot. Mag. Tokyo 14: 87~93& Pl. III)

本報文中に *Phakopsona ehretiae* Hiratsuka なる新種の発表がある。首里市採集の本種は琉球列島において最初に知られたさび菌である。なお「南島」第20号(1935年3月15日号、大宜味朝徳発行)に同氏の「宮城鉄夫君を憶う」と題する記事があり主として宮城鉄夫氏に関する思出話にみたされているが中に次の記事がある。

「明治三十一年(1898)の夏、突然に宮部先生より沖縄県中学校に赴任する様交渉があった。実は少々意外であった。親み深き弘前中学を去るのは惜しくもあり沖縄と云えば随分遠方ので朝の流された所で気候も大部異っているから健康上にも懸念せられた。然し又一面珍しい菌類が沢山あるべく之を採集して学界に貢献する事が出来れば之亦大に意義ある事と考えたので両親の承諾を得て赴任した時は明治三十一年九月であった」云々。氏は病気のためほどなく転任されたが在職中沖縄青年にボーイズ・ビー・アンビシアスの精神をうちこまれ其後北海道にゆく者があとに続いたようである。

### 2. 宮 城 鉄 夫 氏

標題の「沖縄を訪れた」云々にはあてはまらない。周知の如く沖縄の出身だからである。然し沖縄出身最初の植物病理学者として北大の宮部金吾博士に師事されたこの人を逸するわけにいかない。

生 涯 : 1877年9月4日 ~ 1934年8月27日

出 生 地 : 国頭郡羽地村稲嶺。源次郎長男

学 歴 : 沖縄中学校を経て1906年札幌農学校卒業。

職 歴 : 1907 : 国頭郡各間切島組合立農学校教諭。

1917 : 同上農学校校長。

1920 : 台南製糖株式会社入社。

1934年7月31日 : 沖縄製糖株式会社(前記会社改称)取締役。

1934年8月27日逝去。

伝記の刊行 : 1956年7月10日宮城鉄夫顕彰会により、宮城鉄夫(290頁及口絵三葉)刊行。

\* 琉球大学農家政工学部植物病理学研究室業績 第15号

植物病理学上の報文： 1906年6月27日北大卒業論文として提出せる報文が前記の伝記（P.168~224）におさめられている。標題次の通り。

胡瓜ノベと病菌 (*Peronoprasmopara cubensis* Clint) に関する研究

同氏がベト病菌をテーマに選定された理由の一つは其師宮部博士がかつて本病々原菌の同定に関係せられたのに原因するものと思われる。

本病原菌を決定する迄の経緯については日野巖著「植物病学発達史」(P.173~174)や上記の卒業論文中に詳記されている。要約すれば、1893年7月27日玉利喜造氏は本病の病原菌を *Peronospora cubensis* Berk et Curtis として発表したが伊藤篤太郎氏の反対があり落付かなかつた。市川延次郎氏はハーバード大学に研究中の宮部博士に標本と図面を送附した。宮部博士は其師 W. G. Farlow に見せたが標本不完全のため同定不可能に終わった。宮部博士は帰路英国 Kew 植物園で Masec の厚意により *Peronospora cubensis* の原標本を鏡検の結果日本産品と同一であることを確認し一応の解決を見た。その後幾多の経緯はあつたが1903年 Rostowzew 氏が *Pseudoperonospora* なる新属をたててこれに編入し、1905年米国の Clinton 氏は *Peronoplasmopara cubensis* (B. et C.) Clint. として記載した。現在は多く *Pseudoperonospora cubensis* (B. et C.) Rostowzew の学名が使用せられ稀に *Peronoprasmopara* の属名が使用される。宮城鉄夫氏について数多くの逸話が語られているがここに略する。

### 3. 平 塚 直 秀 氏

- 出 生： 1903年8月28日。直治氏長男。
- 出 生 地： 北海道石狩国角田村字栗山
- 学 歴： 1926年北海道大学農学部卒業。直ちに大学院にすすみさび菌類研究に従事。
- 職 歴： 1928年4月： 同大学農学部講師。  
1929年4月： 鳥取高等農林学校教授。  
1936年8月： *Pucciniastrum* 亜科の分類により北大より農学博士。  
1953年 広島大学より理学博士。
- 現 職： 東京教育大学教授（1937年頃より）。1962年学士院賞授賞。日本植物病理学会長。日本菌学会長併任。
- 沖 縄 と の 関 係： 前後三回沖縄を訪ねておられる。1940年1月上旬~約3週間滞在が氏の初回訪問である。

沖縄に関係のある植物病理学上の報文： 氏は第一回来島後において次の諸編を発表した。

Materials for a rust-flora of Riukiu Islands. I. 1940 (植雑、54: 157~166)。

Materials for a rust-flora of Riukiu Islands. II. 1940 (植雑、54: 373~379)。

琉球菌類資料 I. Ⅰ. (摘要) 1940 (植雑、54: 198.422)。

*Uredinales* of Okinawa Island 1940 (札幌博、17: 16~39)。

沖縄島さび菌「フロラ」に就て 1942 (植及動、10: 9~14)。

氏はこの旅行において絶えず同行し採集を共にした沖縄出身の平良芳久氏(後述)を見出され後に鳥取高農の助手として採用せられた。

## 島袋：沖縄を訪れた日本植物病理学者

第二回目の来島。琉球大学招聘教授として1953年4月下旬～6月下旬まで滞在。この機会に同氏に師事せる島袋は琉球列島さび菌研究の決意を固めた。此等が動因となって本列島の此方面の集約的研究が著しく進んだ。次は次回来島までに発表された報文である。

沖縄に関係のある植物病理学上の報文。

麦類のさび病とその防除（琉大普及双書、27頁） 1953

平塚・島袋： **Uredinales of Ryukyu Islands** 1954（琉大農学報告 I：1～56 & 2pl.）。

平塚・島袋： 南部琉球列島産さび菌類に関する研究 1955（琉大農家学報告 II：4～15）。

平塚・島袋・新納義馬： 奄美大島産さび菌類に関する研究 1955（同上 II：16～37）。

平塚・島袋・佐藤昭二： 薩南諸島産さび菌類に関する研究 1955（同上 II：38～59）。

平塚・島袋・新納義馬： トカラ列島産さび菌類に関する研究 1956（同上 III：1～18）。

平塚・島袋： 琉球列島さび菌フロラ資料 1957（同上 IV：117～120）。

平塚・島袋・新納： 北部トカラ列島（三島村）所産さび菌類 1757（同上 IV：157～166）。

第三回目の来島： 1957年1月8日～1月20日。喜屋武、摩文仁の南部地区、与那原町、知念村等の東南地区、名護町、伊豆味、今帰仁、国頭郡与那琉大演習林等の北部地区を採集したが主として平塚利子（後述）氏の採集を加勢されるのが主眼のように見受けられ、帰島後の沖縄関係報文はない。

## 4. 岡 本 弘 氏

沖縄との関係： 1935～1937沖縄与儀農事試験場技官として滞島され同年茨城県農事試験場へ転任。第二回目の来島は1951年5月5日～6月5日。

現 職： 農林省中国農業試験場。

沖縄に関係のある植物病理学上の報文： 沖縄本島に於ける **Sclerotinia libertiana** Fuck. の子囊盤の形成について 1938（日植病報 8：3）。

在圃中の塊根に於ける甘藷黒斑病と塊根喰害害虫との関係について 1940（日植病報 10：1）。

琉球で発見された甘藷新病害について 1951（植防 5：7）。

## 5. 内 藤 喬 氏

生 涯： 1891年12月18日～1957年10月31日。

出 生 地： 島根県能義郡母里村。亀次郎長男。

学 歴： 鹿児島高等農林学校農学科卒業。

職 歴： 1922年母校助教授。

1928～1930： 欧米留学

戦後鹿児島大学農学部教授を経て同大学文理学部教授。

同氏は鹿大、琉大共同学術調査第一回目の隊員として参加のため、1957年10月26日鹿児島港発、同年同月28日午前8時沖縄泊港上陸。10月31日琉大国頭与那演習林において採集植物の整理中に心臓病発作のため急逝された。

沖縄との関係： 第一回は1940年1月2日～1日西表島滞在。第二回回来島の際に前記の如く生涯の幕をおろされたのである。

沖繩に関係ある報文： 西表島見聞記 1940（鹿児島高等農林学校校友会報第31号）。  
西表島植物誌 1953（鹿大文学部理科報告Ⅱ）。

因に菌類関係の論文に *Mycoflora of Southern Kiushiu* が数編出ている。氏は「民俗と植物」に興味を持たれその方面の調査研究が多い。

## 6. 平 良 芳 久 氏

生 誕： 1914年2月27日～1943年1月20日。

出 生 地： 沖縄県西原村我謝。県立農事試験場官舎。徳助長男。

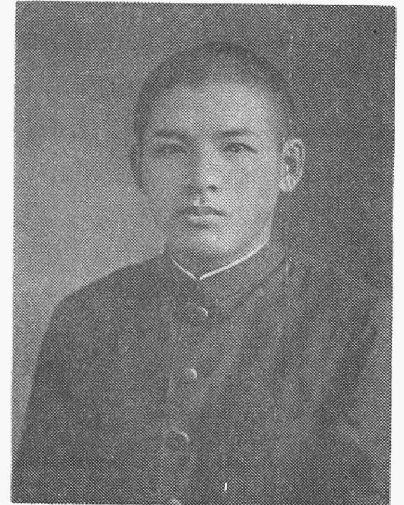
平良芳久氏も沖縄出身であり標題の、沖縄を訪れた、云々には該当しない。また植物病理学者として完成を見ないうちに早く逝去されている。然し彼の努力、斯学に関するひらめきは並々ではなくあえて頁を捧げた。

学 歴： 1932： 県立農林学校卒業。

1936： 台湾に植物採集旅行。（写真挿入）

1940年5月～同年8月： 鳥取高等農林学校助手として平塚直秀教授教室に勤務。

応 召： 1940： 8月中支派遣軍として応召し1943年1月20日南方諸島に於て戦死。



沖縄に関係ある植物病理学上の報文

平塚・平良： 琉球沖縄に於て発見されたるさび菌の一珍種 1940（植及動 8：1641～1642）。

平良氏が那覇奥武山公園の オキナワジンコウ (*Excoecaria agalocha* L.) より採集せる *Skierka agalocha* Racib. について論じ、本属が日本のさび菌フロラに新しく加えられるべきこと、また種も日本新記録であることや夏孢子世代が新しく発見されたことがのべられている。因に本論文は平良氏の没後平塚氏によって発表されたものである。なお本種は1909年Raciborski氏によってジャババから記載されている。

## 7. 向 秀 夫 氏

現 職： 農林省農業技術研究所。枇杷の細菌病原細菌に関する研究により農学博士。

沖 縄 に 滞 在： 1951年5月5日～6月5日。

沖縄に関係ある植物病理学上の報文

琉球に発見された甘藷の新バイラス病 1951（農及園 26：8）。

## 8. 藤 岡 保 夫 氏

出 生 地： 台湾台北市（現籍兵庫県）。

現 職： 広島農業短期大学（賀茂郡西条町）。

沖 縄 の 滞 在： 1952年1月22日～6月2日。

沖縄に関係ある植物病理学上の報文

藤岡・永山正利：琉球に於ける甘藷の天狗巢ウイルス病について 1953（日植病報 18：50～51）。

### 9. 宇都敏夫氏

出生地：1913年8月4日 鹿児島県鹿児島市  
 学歴：1922年：鹿児島高等農林学校農学科卒業。  
 職歴：来島当時は鹿児島県農業試験場鹿屋分場。  
 現職：兵庫県農業試験場病害虫専門技術員。  
 沖縄に滞在：1954年3月30日～6月28日、その間宮古、八重山も踏査。

沖縄に関係ある植物病理学上の報文：

琉球における甘藷病害の現状 1955（植防 9：2）。

琉球での病害の記録 1956（農薬 3：3）

氏は泰文館より「新農薬による病虫害防除の実際」なる著書（285頁）1960がある。

### 10. 平塚利子氏

学歴：愛泉女子短大園芸学部を経て東京教育大学理学部に編入し1958同大学博士課程卒業。理学博士。  
 沖縄に滞在：夫君平塚直秀博士に同伴し1957年1月8日～20迄滞島。其間の採取標本も加えて下記論文を発表、卒業と同時に学位授与。  
 現職：愛泉女子短期大学。

沖縄に関係ある植物病理学上の報文：

The species of rust fungi parasitic on the grasses collected in the southern Kiusyu and the Ryukyu Islands, Japan. 1958. （琉大農家工学報告 V：23～106 & Pl. II）。

### 11. 小室康雄氏

沖縄に滞在：1960年2月22日～6月1日。その間に宮古、八重山も視察。  
 現職：農林省農業技術研究所。農学博士。

沖縄に関係のある植物病理学上の報文：

植物ウイルスの検出・診断および防除 1960年12月（33頁）（琉球政府経済局農務課発刊）。

沖縄のサツマイモ・てんぐす病について 1961（植防 15：2）

### 12. 村山大記氏

出生地：1911年 北海道  
 学歴：1931：北大農学部農業生物科卒業。  
 1946：北大助教授。

1957 : 馬鈴薯ウイルス病の免疫学的研究により農学博士。

1959 : 欧米留学。

現 職 : 同大学教授。

沖 縄 に 滞 在 : 1961年4月25日 ~ 7月7日。琉球大学招聘教授。その間宮古(6月26-29)、八重山(6月29日~7月3日)視察。

沖縄に関係のある植物病理学上の報文 :

植物ウイルス病の診断 1961年7月(琉大農家便り No. 68)

サツマイモ天狗巣病の防除対策についての勧告 1962年3月(琉球植物防疫情報第10号)。

### 13. 日 野 敏 氏

出 生 : 1898年9月1日。吉甫二男。

出 生 地 : 山口県大島郡久賀町1341番地。

経 歴 大 要 : 1923 : 東京大学農学科卒業。

1926 : 宮崎高等農林学校講師後教授。

1930年9月 : 土壌織毛虫の生理的研究にて農学博士。

1934年~1936年5月 : 欧米留学。

1942年11月 : 陸軍司政官、馬來クアラランプール博物館長、其他。

1946年4月 : 山口獣医専門学校教授。後山口大学農学部教授。学部長。

1962 : *Icones Fungorum Bambusicolorum Japonicorum* (日本竹類寄生菌譜) により広  
大より理学博士。定年退職。

沖 縄 に 滞 在 : 1961年7月16日~7月25日。山口生物学会調査団員として水産庁練習船天鷹丸(214トン)に加は  
り来島。当時日本植物病理学会長。伊江島、琉大演習林などにて採集。

沖縄に関係のある植物病理学上の報文はないが「日本竹類寄生菌譜」の中に沖縄産のものが多数図解されており、又博  
覧強記の著者には多方面に亘る著述が多数ある。

其他に1950年11月3日与儀農事試験場において甘蔗ウイルス病の講演をされた Eatom M. Summers はしばらく滞  
在のうえ甘藷バイラス病の調査など行はれた筈で沖縄関係の病理文献として次の一編がある。

”Ishuku-byo”(Dwarf) of Sweetpotato in the Ryukyu Islands. 1951(Plant Disease Reporter Vol. 35 : 6)

また1951年5月5日~6月5日来島の佐藤覚氏(当時横浜植物防疫所調査課長)には次の一編がある。

植物防疫の立場から見た琉球 1951(植防 5 : 8)

さらに永山正利氏(現沖縄農業試験場病理昆虫主任)には幾多の沖縄関係の植物疾病解説書や専門的著述があり、安里  
清景氏(現琉球政府経済局農務課長)は 久しく琉球植物防疫所にあつて 其方面につくされた功績は大きく、垣花実記  
氏(現琉植防空港)の宮古島における活動にめざましいものがあつた。些か古いが塚田孝美氏(1929 ~ 1940農試並農  
務課)も病防陣営の一人であつた。此等の人たちについては別に稿を改める機会もあるかと思はれる。

農林省農業技術研究所の農薬研究室に沖縄首里市出身の里見朝正氏(農学博士)が居られ、さきにプラストサイジン  
Sの著述公表。また福永一夫、米原弘らとの共同研究により1962年度の農学賞を授賞された。その題目は「抗生物質に

よるいもち病防除に関する研究」であった。血のつながっている沖縄同胞として心強いと云はねばならぬ。

私共はかくのごとく行くてを地均し斯学発達に尽力された人々の地味な仕事を振りかかって身自らも振起せねばならぬと思う。

### 要 約

この報文は沖縄に関係ある日本植物病理学者13氏即ち平塚直治、宮城鉄夫、平塚直秀、岡本弘、内藤喬、平良芳久、向秀夫、藤岡保夫、宇都敏夫、平塚利子、小室康雄、村山大記、日野徹の各氏につき御来島時期と滞島期間、沖縄に関係のある植物病理学上の文献などについてのべた。

### 主 要 文 献

- 1 Naohide Hiratsuka 1936 A Monograph of *Puccinistreae* (鳥高農学報第4号)
- 2 Mains E. B. 1939 The genera, *Skierka* and *Ctenoderma* (Mycologia 31 : 175 ~ 190)
- 3 日野徹 植物病学発達史 1949 (朝倉書店)
- 4 向秀夫 1952 枇杷癭腫病病原細菌に関する研究 I (農技研報告C第1号)
- 5 琉球大学農家政工学部学術報告 合本 1954 ~ 1958
- 6 宮城鉄夫顕彰会編 1956 宮城鉄夫 (同顕彰会刊行)
- 7 村山大記 1959 馬鈴薯ウイルス病の免疫学的研究 (同書刊行後援会)
- 8 Iwao Hino 1931 *Icones Fungorum Bambusicolorum Japonicum* (The Bamboo Garden)
- 9 植物防疫 合本
- 10 植物及動物 合本
- 11 日本植物病理学会報 合本
- 12 農業及園芸 合本